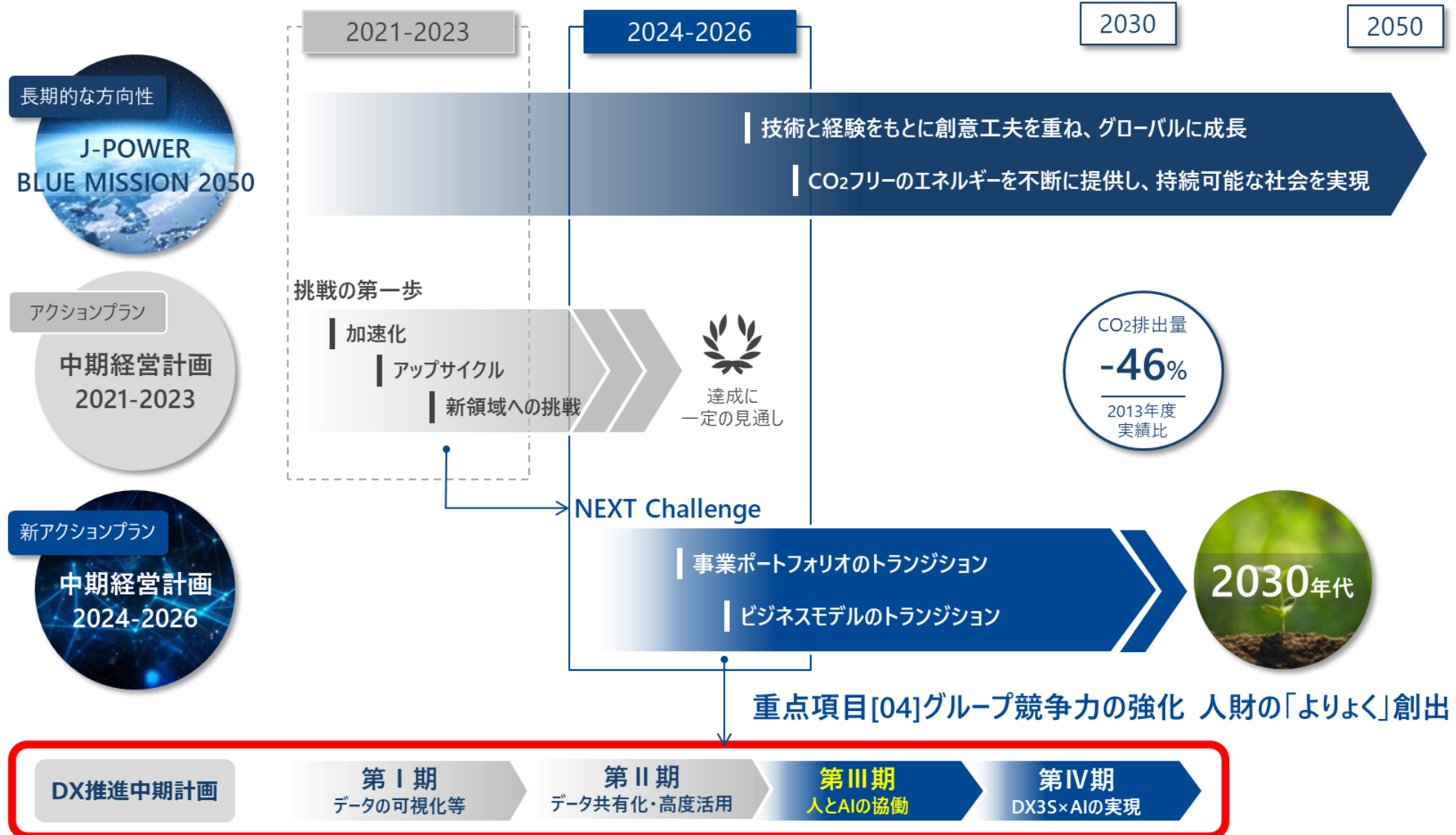


**J-POWERグループ  
第Ⅲ期DX推進中期計画  
(2026～2027年度)**

2026.05.12

# J-POWER BLUE MISSION と DX推進中期計画

## ■ J-POWER BLUE MISSION および 中期経営計画 と連動したDX推進中期計画を策定



# 第II期DX推進中期計画の成果

## 取り組み実績

領域	実績
<p><b>① コーポレート業務領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ JEWEL※1について、JP・JPTNの構想策定（2024年度）を経て詳細要件定義を2026年4月に完了。主要グループ会社の構想策定も進捗中。</li> <li>✓ ワークマネジメントツールおよびRPAの導入を推進。</li> </ul>	<p><b>定性目標</b> 3つのよりよく（※）を創出し、ワークインライフの推進と労働生産性を向上</p> <p><b>定性効果（効果実感調査結果）</b> 3つのよりよく実感度が着実に向上</p> <p>※以下の3つの力を示す造語 余力（ゆとりの力）：作業自動化や効率化により生まれる余裕の力 与力（新たな力）：五感の補完や、新たな機能によって得られる創意工夫の力 予力（見通す力）：データ分析・解析に基づく予測、予見の力</p>
<p><b>② 既存事業領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ AI・先端技術の検証・実装（社内規程検索AI、業務ノウハウ蓄積AI等）を実施。</li> <li>✓ 設備保安の高度化・効率化に向けて、総合安全・保安推進部とDI部※2の連携を強化</li> </ul>	<p><b>定量目標（目安）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間効果：30万時間/年（2021年度比）</li> <li>・金額効果：30億円/年（同比）</li> </ul> <p><b>定量効果（目安）</b> 時間効果・金額効果ともに目安目標を概ね達成</p>
<p><b>③ 新規事業領域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 重要社会インフラ事業者向けのセキュアなOT用AI-DCの事業化検討を推進。</li> <li>✓ 環境価値プラットフォームおよび不安全検知AIの検証を実施中。</li> </ul>	
<p><b>④ データドリブン・AI基盤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 共用データ基盤を2025年6月より運開し、共用データによるダッシュボードを11月に公開。</li> <li>✓ サイバーセキュリティレベル及びリテラシー向上施策、事故対応手順の整理を実施。</li> <li>✓ 企業版Copilotに加え、当社独自の生成AI環境（J-Chat）を構築。</li> </ul>	
<p><b>⑤ グループDX人財基盤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各DX研修（DX基礎研修、DX中核人財/高度専門人財向け研修）を実施し、DX中核人財：265名、DX高度専門人財：34名を認定。</li> <li>✓ DX意見交換会/交流会/相談会/コミュニティ活動等を通して、DX推進機運および生成AI等ツールの利用を促進。</li> </ul>	

※1：J-POWER グループの次世代ERP。“J”-Power group “E”RP system for better “W”ork “E”nvironment and “L”ocationから命名

※2：デジタルイノベーション部

# 第III期DX推進中期計画の全体像

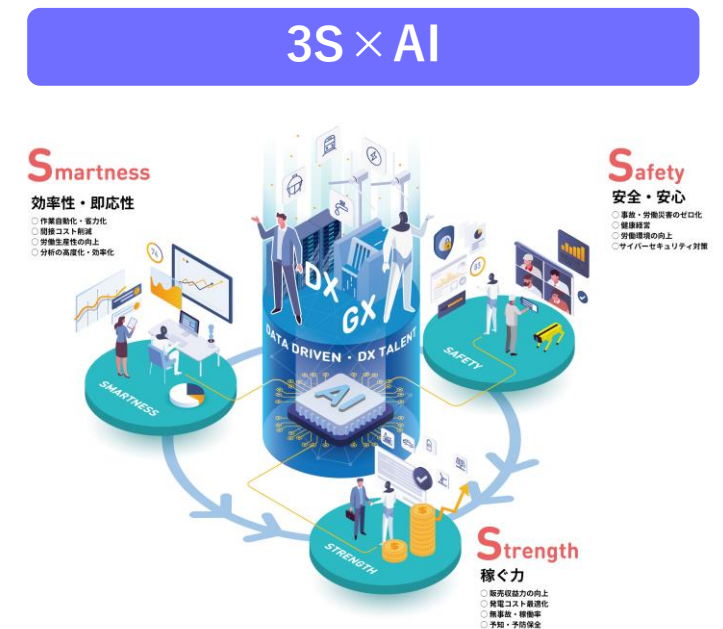
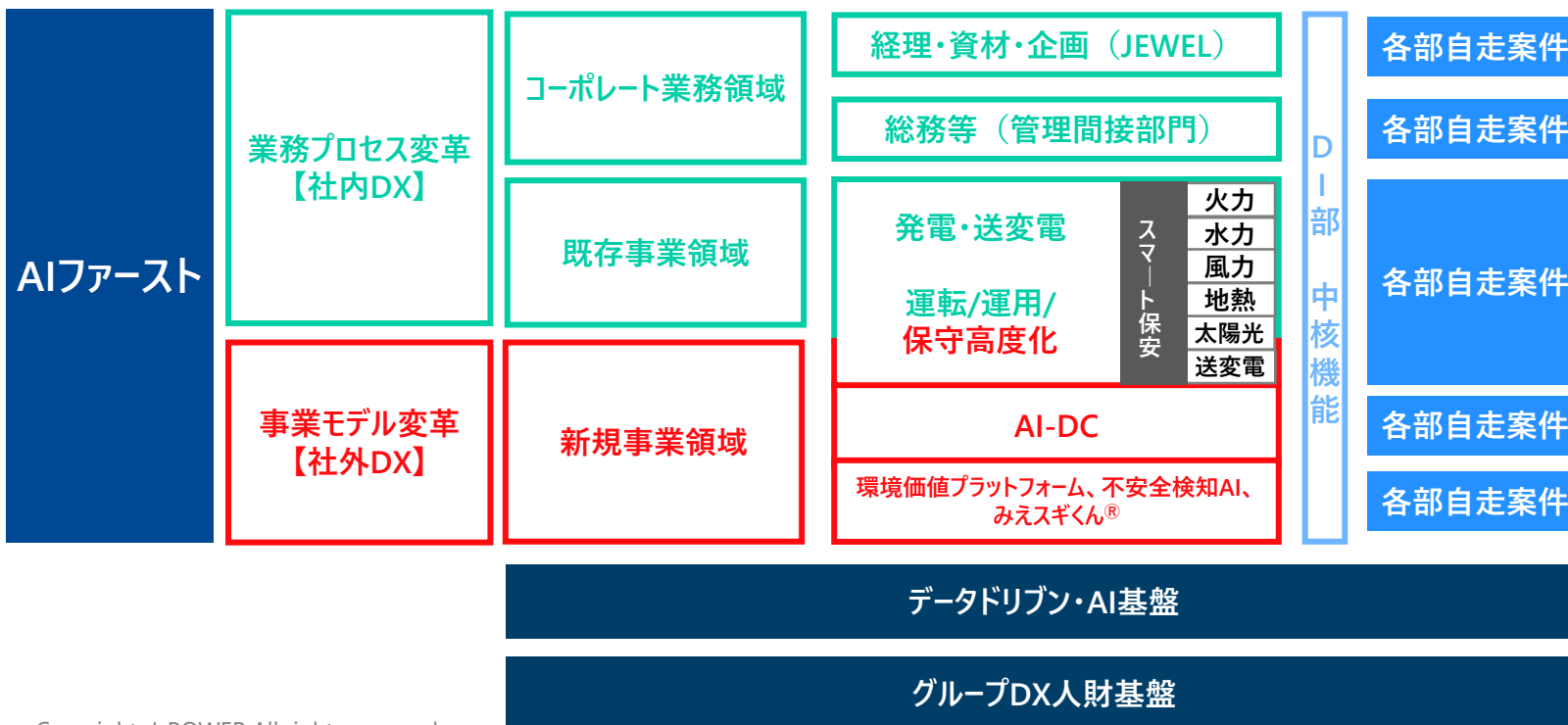
## 【デジタル環境に関する基本認識】

- ・少子高齢化・生産年齢人口減少に伴い社員の確保がより困難に
- ・AIは進化、AIエージェントが人の代わりに作業を行う（AIファースト）
- ・2030年頃、未知の課題にも対応できる汎用AI（AGI）が登場
- ・業務プロセス変革により分散化課題（人財・業務・データ）を解消
- ・当社事業は、人とAIが協働する新しい事業モデルに転換
- ・既存分野から成長分野へ人財をシフト
- ・AIの進化は脅威ではなく、新たな価値創出の機会



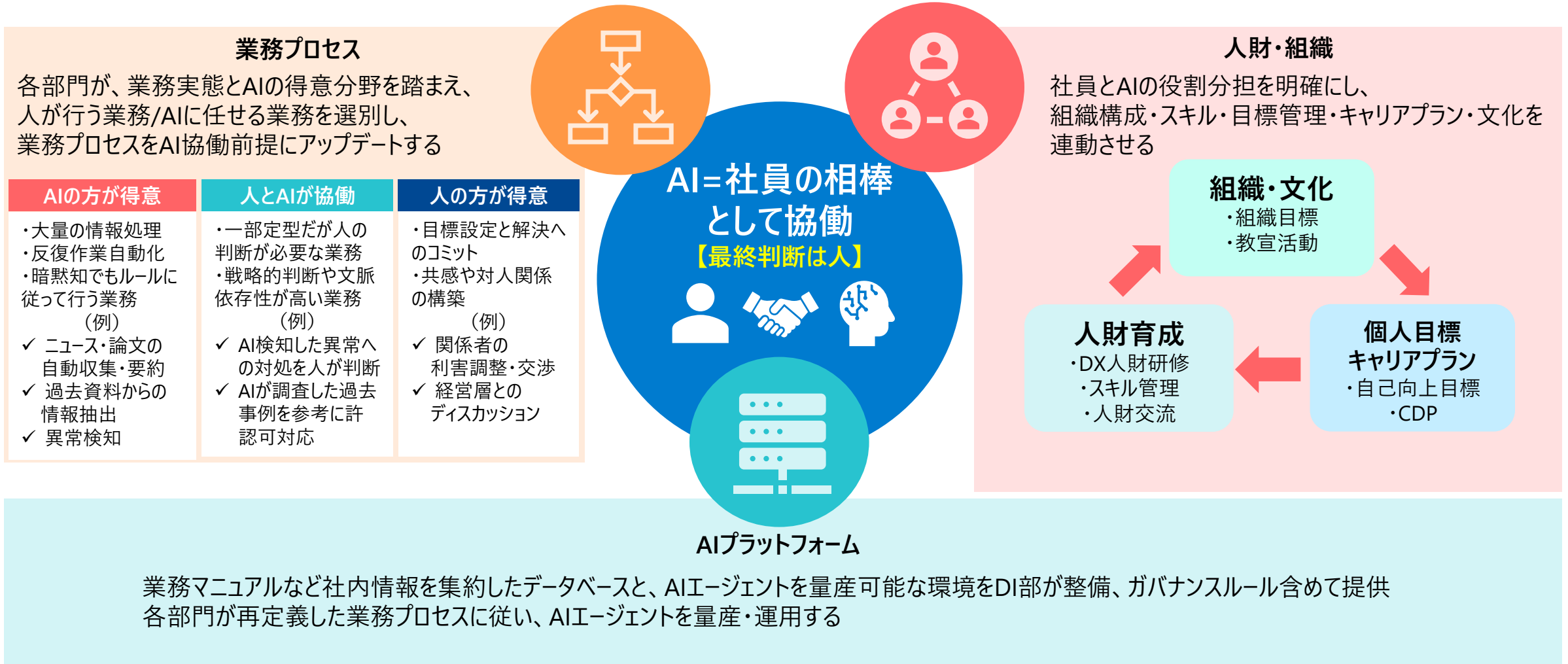
## 【DX推進ビジョン】 **3S × AI** 【スリーエス・バイ・エーアイ】

- ・AIファーストが基本
- ・2つの基盤（データドリブン・AI + グループDX人財）が土台
- ・業務プロセス（社内DX）と事業モデル（社外DX）を変革
- ・人とAIの協働で3Sを進化【最終判断は人】
- ・DXとGXの同時実現による新たな事業創出



# AIファーストの考え方

- 今後、AI=社員の相棒（パートナー）として、新しい関係性のもとで業務遂行していくことが重要
- 社員とAIの協働に向けて、業務プロセス再設計、AIプラットフォームの構築、人財・組織作りが必要

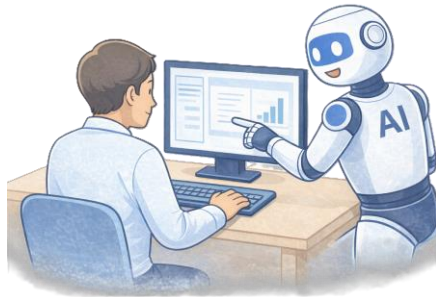


# AIファーストの考え方

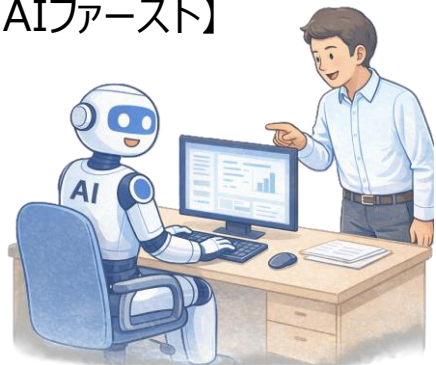
- AIを社員の「相棒」として協働
- 社員はAIに定型業務処理を指示・成果物を確認・判断するAI中心の業務プロセスに移行

【従来】

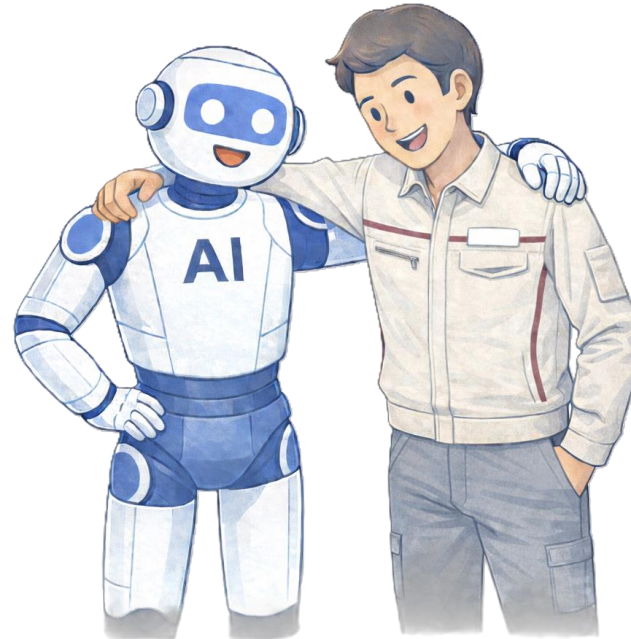
人が業務遂行  
AIが補助



【AIファースト】



AIが定型業務遂行  
人が指示・判断



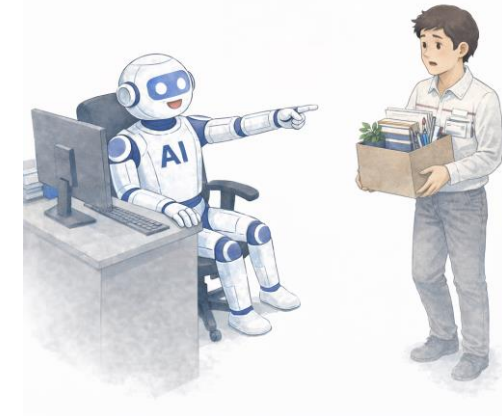
## AIの役割

- ・ 定型業務処理
- ・ 大量のデータ処理
- ・ 社員の能力の拡張

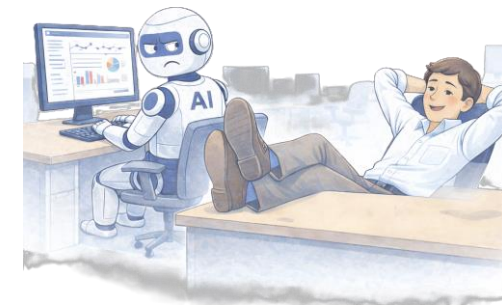
## 人間の役割

- ・ AIへの指示・判断
- ・ 利害調整・交渉
- ・ 課題抽出・解決
- ・ AIの能力の最大化
- ・ 成果物の最終判断

×AIに仕事を奪われる



×AIに任せておけばいい



# “DX3S×AI”J-POWERグループのDXビジョン

- DXの更なる進化・深化向け、DX推進ビジョンを「DX3S + D」から「DX3S×AI」に再定義
- 会社や社員を支える3つの要素 “Safety（安全・安心）”、“Smartness（効率性・即応性）” “Strength（稼ぐ力）” の向上と新たな価値創出を目指す

## Smartness

### 効率性・即応性

- 作業自動化・省力化
- 間接コスト削減
- 労働生産性の向上
- 分析の高度化・効率化

## Safety

### 安全・安心

- 事故・労働災害のゼロ化
- 健康経営
- 労働環境の向上
- サイバーセキュリティ対策

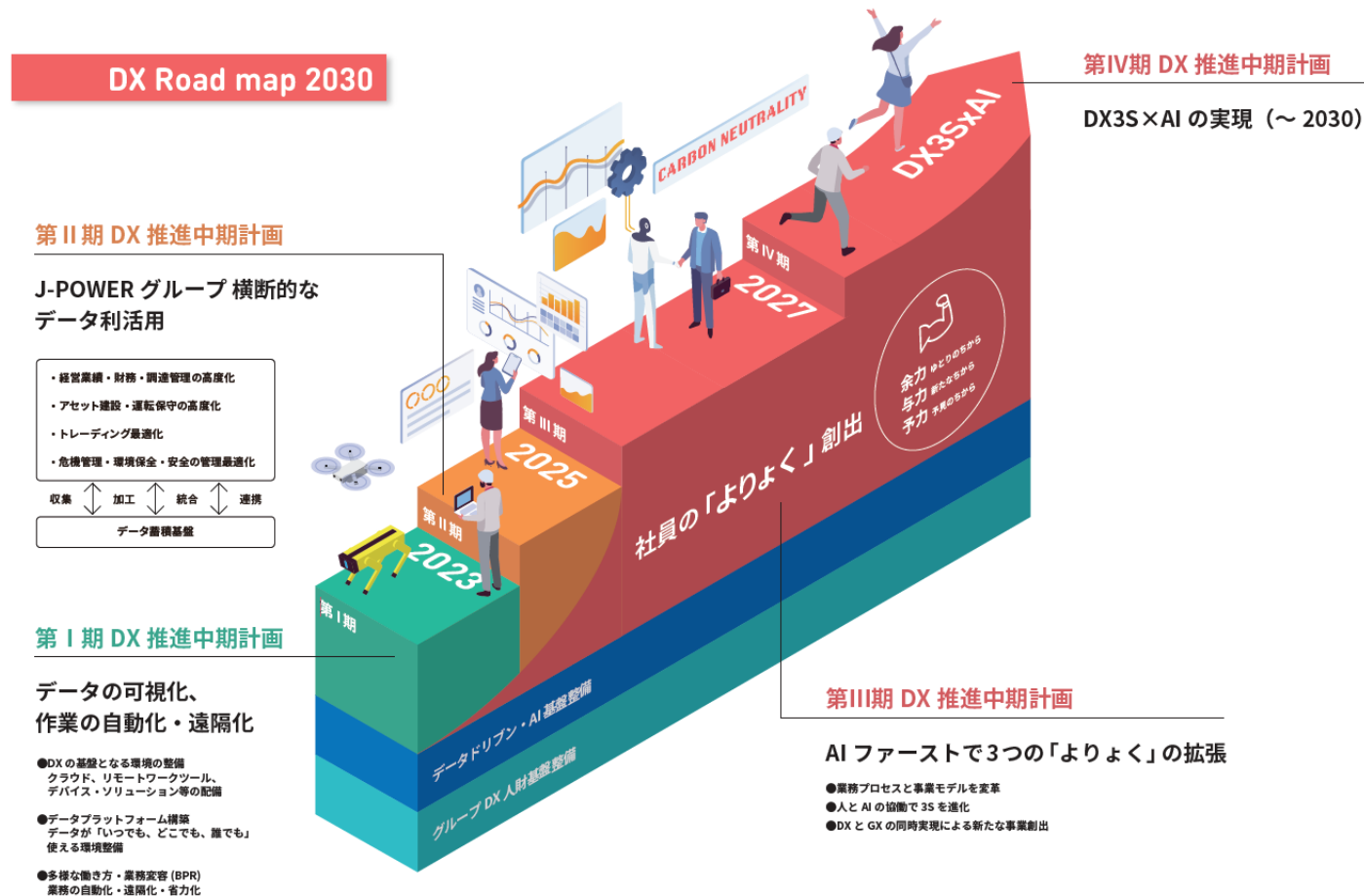


## Strength

### 稼ぐ力

- 販売収益力の向上
- 発電コスト最適化
- 無事故・稼働率
- 予知・予防保全

- DXの目指す姿であるDX3S×AIを実現するための大きな道筋を、DXロードマップ2030に定める
- 第Ⅰ期・第Ⅱ期DX推進中期計画期間（～2025年度）をDX推進のための重点基盤整備期間として位置づけ、社内業務効率化・高度化と、DX人材育成やデータ利活用基盤の構築を推進
- 第Ⅲ期以降においては、AIを社員の“相棒”として協働する「AIファースト」を基本にこれらの取組みを拡大・進化し、社員のよりよく創出によるDX3S×AIの実現を目指す



# 各領域の取り組み事例①【コーポレート業務領域】 JEWEL（次世代ERP）

■ “3S×AI”の実現に向けて、**次世代ERPは「社員のワークインライフ」「ロケーションフリー」「スマートワーク」に資する次世代の中核システム**を目指す

## <DX戦略から踏襲する考え方>

### 1 業務プロセス変革

次世代ERP導入を機に  
抜本的な業務の在り方見直し

### 2 データ連携 ナレッジの可視化

組織や職能の縦割り・属人化を  
排し 労働生産性を高める

### 3 データ利活用の高度化

データ収集・加工から、  
分析・予測へ業務シフト

## <3S×AI実現への貢献の仕方>

### 「Safety」への貢献

データ連携の実装と業務プロセス変革を通じて多様な働き方をサポートし、**ワークインライフ**を実現する。

### 「Smartness」への貢献

データ連携の実装によりデータ収集を効率化することでエクセルのバケツリレーから脱却し、**即応性を高める**。

### 「Strength」への貢献

資材調達情報プラットフォーム、経営情報集約化を実現させ、**稼ぐ力の最大化**に貢献する。

### 「AI」への貢献

AI活用とデータに基づく判断を支える環境を整備し、**意思決定の高度化および迅速化**を推進する。

## <次世代ERPが目指す姿>

ワークインライフ



+

ロケーションフリー



+

スマートワーク

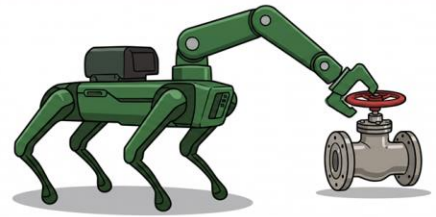


# 各領域の取り組み事例②【既存事業領域】 電力設備点検ロボット管理プラットフォーム

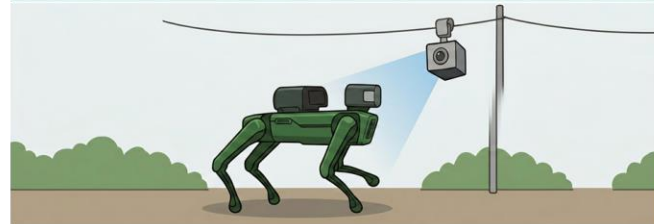
- 各部門にて四足歩行ロボット等を導入・検証中
- 異種・複数のロボットを共通管理できるシステムを開発中



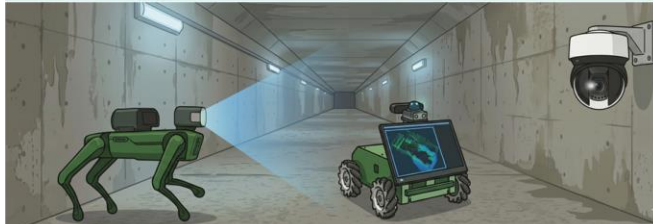
ユースケースA: 4足ロボットとロボットアームの連携によるバルブ開閉



ユースケースB: 4足ロボットとレールカメラの連携による分担点検

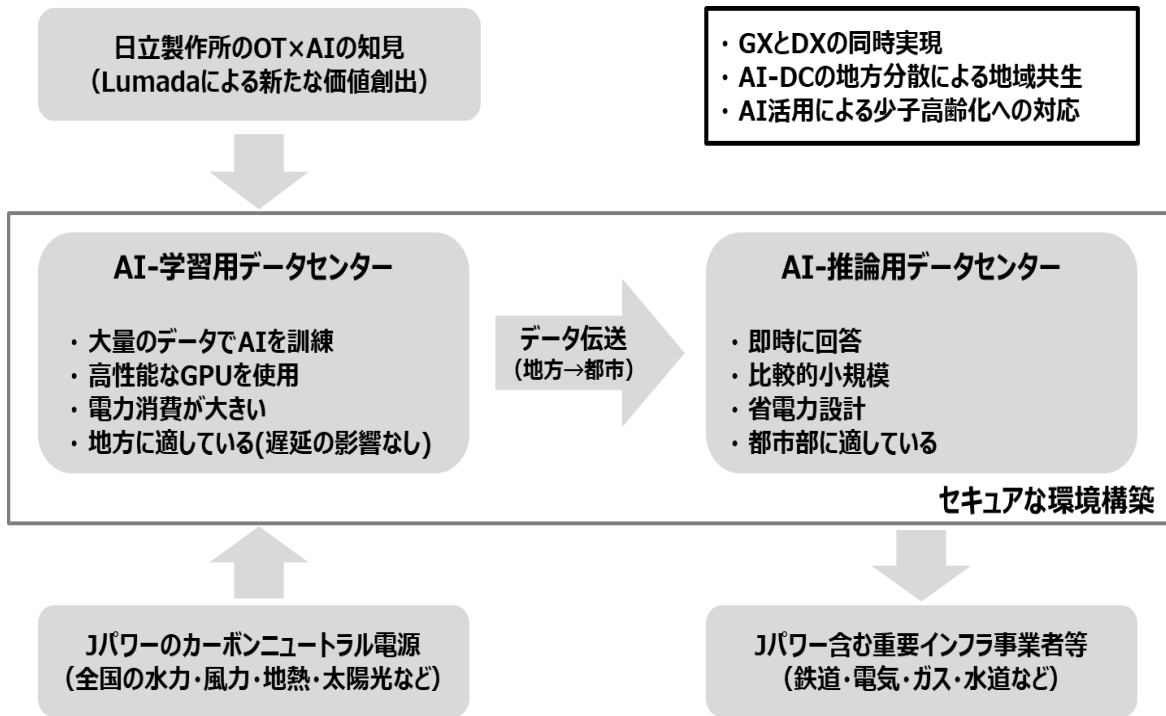


ユースケースC: 複数ロボット、カメラによる自動巡回



# 各領域の取り組み事例③【新規事業領域】 AI用データセンター

- 2025年に日立製作所と基本合意書を締結・共同プレスリリース、技術検証・事業化検討を開始
- 現在は都市部に1極集中しているAIの学習と推論を分離、学習用DCは地方でCN電源で駆動、推論は主に都市部に設置
- 重要インフラ事業者向けのOT（Operational Technology／運用技術）用のセキュアなDCを志向
- Jパワーグループ、JR各社及び私鉄各社等の鉄道事業者にて、全国を縦断するセキュアな自営APN網の構築を目指す



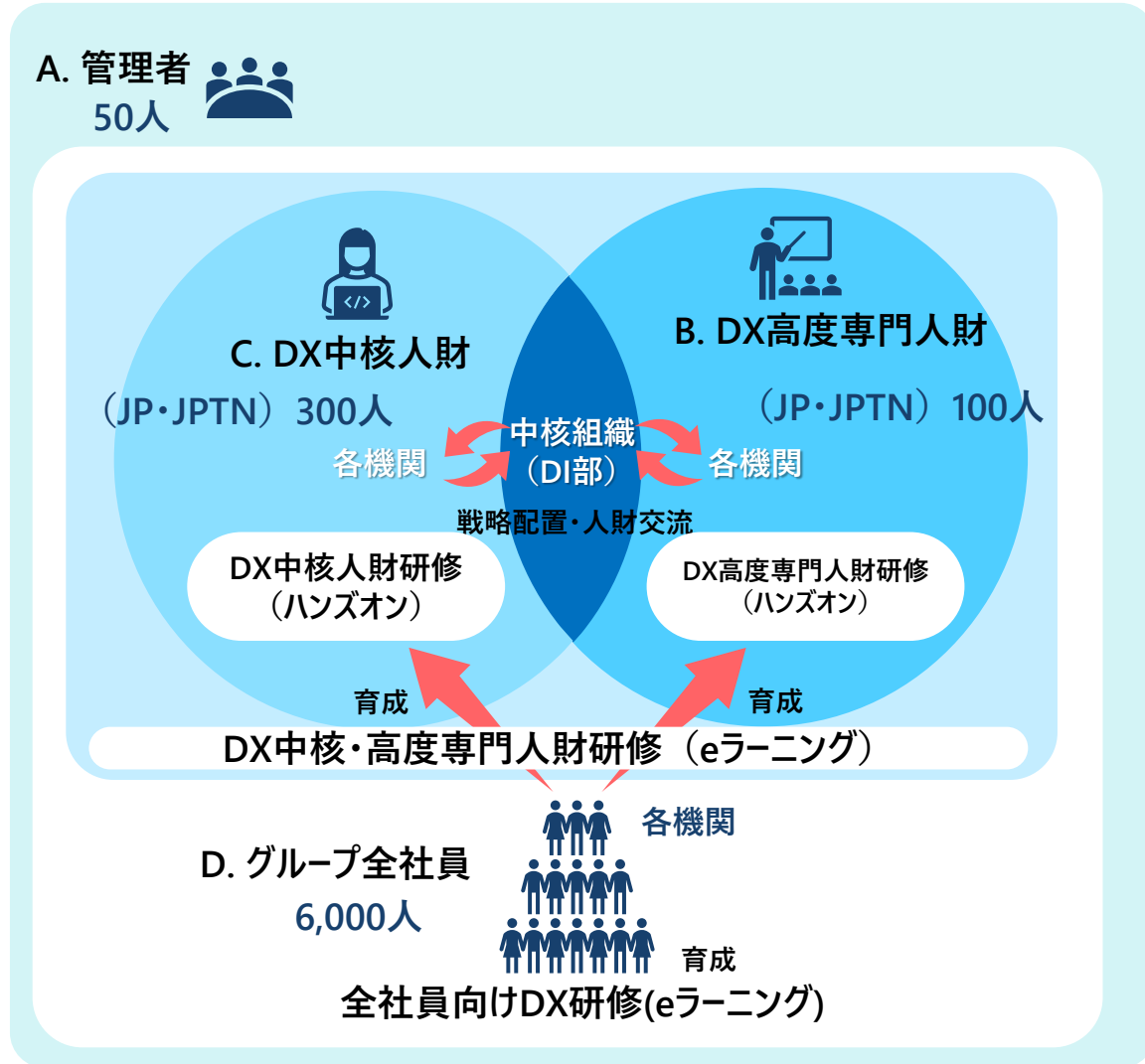
- ✓ ある地域（例えば九州）で再生可能エネルギーの発電が集中し、供給過剰になれば、当該地域の価格は下落
- ✓ この価格情報をもとに、DCは演算処理を当該地域（例えば東北から九州）へと移動
- ✓ 電力コスト最適化と再エネ有効活用の両立



※上記はDC間のWLSイメージを図示したものであり、実際の学習用DCの配置及びDF経路を示すものではない。

# J-POWERグループにおけるDX人財定義

## DX人財および役割・スキルの定義



### A. 管理者

【役割・スキル】  
会社・組織運営に際し、DX戦略立案力を発揮

### C. DX中核人財

【役割・スキル】  
デジタルの業務実装を行い、部門のDXを主導する (※1)

### B. DX高度専門人財

【役割・スキル】  
データ・AIなどの高度な専門技術を駆使し、施策を推進

- 1.データサイエンティスト (※2)  
MATLABやPythonなどのツールを用い、データハンドリングやAIなどの高度な専門技術を駆使して、施策を推進
- 2.生成AIエンジニア  
自部門が保有するドメイン知識を効果的に生成AI (LLM) に学習させ、施策を推進

### D. グループ全社員

【役割・スキル】  
AIを使い倒し、デジタル技術やアプリを業務へ活用する

(※1) 経産省・IPAのデジタルスキル標準におけるビジネスアーキテクト相当  
(※2) " データサイエンティスト相当

